

令和 4 年 6 月 2 4 日

資料提供

担当課室	農業環境・鳥獣害 対策室	農作物病虫害防除 所 紀の川駐在
担当者	岩倉	弘岡
電 話	073-441-2905	0736-73-2274

## 病虫害発生予察注意報(第2号)について

令和4年度病虫害発生予察注意報（第2号）を別添のとおり発表します。

令和4年6月24日

令和4年度病害虫発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：クビアカツヤカミキリ
2. 対象作物：スモモ・モモ・ウメ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：前年比 多
5. 発生時期
  - 1) 幼虫の排出するフラス（糞と木くずが混ざったもの）：3月下旬～10月
  - 2) 成虫：5月下旬～8月中旬
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 県北部における令和4年4月末現在の被害確認園地数は158園地（前年比3.0倍）、被害確認本数は533本（前年比2.1倍）と被害が急速に拡大している（表1）。
  - 2) 成虫の年間移動距離は平均で約2kmといわれている。本種が食入した木材の運搬や自動車への付着など、意図しない人為的要因により飛び地状に分布が拡大する可能性がある。
  - 3) 成虫の発生盛期は6月中下旬～8月上旬であり、羽化した成虫は多数の卵を産み続けるためこの時期に防除を徹底する必要がある。

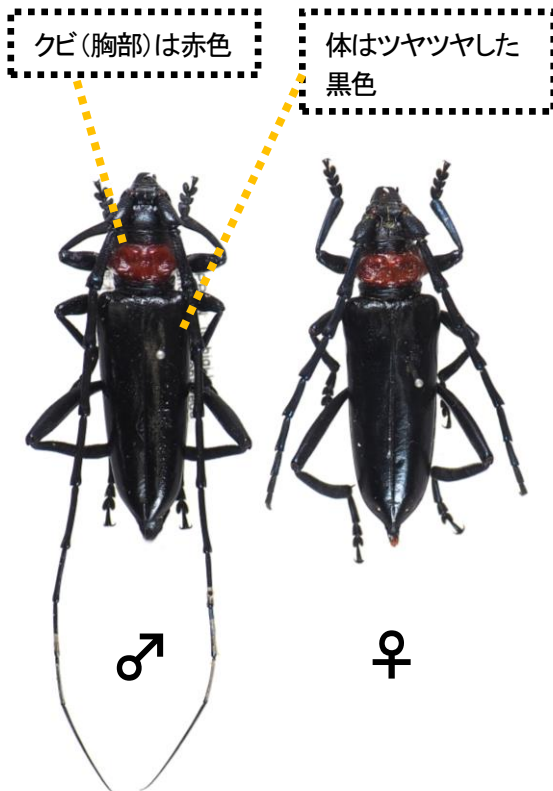


写真1 クビアカツヤカミキリの成虫



写真2 樹幹から排出された大量のフラス  
（かつらぎ町スモモ園：令和3年3月撮影）  
現在は全樹伐採

表1 和歌山県におけるクビアカツヤカミキリ被害確認数の推移

市町名	樹種	令和2年5月末		令和3年5月末		令和4年4月末 <sup>*1</sup>	
		園地数	被害本数	園地数	被害本数	園地数	被害本数
かつらぎ町	スモモ	4	18	16	143	36	226
	モモ	6	18	17	65	40	139
	ウメ	2	7	8	20	11	30
橋本市	スモモ	- <sup>*2</sup>	-	4	7	12	33
	モモ	-	-	1	2	18	23
	ウメ	-	-	1	1	15	25
九度山町	スモモ	-	-	-	-	1	1
紀の川市	モモ	-	-	3	8	7	21
	ウメ	-	-	-	-	2	9
岩出市	モモ	1	2	2	4	4	6
	ウメ	-	-	-	-	3	8
和歌山市	スモモ	-	-	-	-	4	5
	モモ	-	-	-	-	3	5
	ウメ	-	-	-	-	2	2
計		13	45	52	250	158	533

\*<sup>1</sup> 令和4年5月末の値は現在集計中

\*<sup>2</sup> -は未確認

## 7. 防除上の注意事項

1) 果樹園内を定期的に見回り、できるだけ早期に被害を発見し対策を行う。被害が確認された園地やその周辺園地では「クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル(暫定版) [https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/d00204085\\_d/fil/manual.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/d00204085_d/fil/manual.pdf)」を参考に以下の防除を徹底する。



- (1) 成虫は見つけ次第捕殺する。
  - (2) 成虫発生盛期の6月中下旬～8月上旬にクビアカツヤカミキリに適用のある薬剤(表2)を10～14日間隔を目安に散布する(収穫後も防除を継続する)。その際、葉だけでなく幹や枝にも薬液がかかるように散布する。
  - (3) 幼虫はマイナスドライバーやクジリ等で掘り取るか、針金で刺殺する。掘り取りや刺殺ができなかった場合はスプレー式の農薬を食入孔に噴射する。
  - (4) 被害樹の枝幹には、羽化成虫の分散防止のため成虫発生時期(5月下旬～8月中旬)に目合い4mm以下のネットを2重に巻き付ける。ネットを樹皮に密着させると成虫がネットをかみ切るので、ネットと樹皮の間に余裕を持たせ空間を作る。ただし、羽化成虫はネット内部で交尾・産卵したり、ネットをかみ切り隙間から脱出したりする場合もあるので、ネット設置後も定期的に見回り捕殺する必要がある。
  - (5) 被害が激しい樹は、幼虫を全滅させるのが困難で早期の枯死が予想されるため、成虫脱出時期以外の9月～翌年4月に伐採(抜根)し、被害拡大を防止する。伐採樹は放置せず、粉碎(10mm以下)または焼却処理する。なお、本種は特定外来生物に指定されているため、保管や移動に規制がかかるので注意する。
- 2) サクラも本種の発生源となるので、サクラの被害にも注意する。
- 3) 本種の成虫やフラスを見つけた場合は、直ちに農作物病害虫防除所もしくは管轄する各振興局農業水産振興課に連絡する。

表2 クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧（令和4年6月17日現在）  
（使用時期が収穫前日までの薬剤の背景を色付け）

成虫対象

作物名	IRACコード	農薬の名称	使用時期	希釈倍数	使用方法	本剤の使用回数
もも	1A	オリオン水和剤40	成虫発生期 (但し、収穫14日前まで)	1000倍	散布	2回以内
	1B	スミチオン乳剤	成虫発生初期 (但し、収穫3日前まで)	1000倍	散布	6回以内
	1B	スプラサイド水和剤	収穫21日前まで	1500倍	散布	2回以内
	1B	スプラサイドM	収穫60日前まで	200倍	樹幹部及び主枝に散布	2回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	3回以内
	21A	ハチハチフロアブル	成虫発生期 (但し、収穫前日まで)	1000倍	散布	2回以内
	28	テツパン液剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
すもも	1A	オリオン水和剤40 <sup>*1</sup>	成虫発生期 (但し、収穫7日前まで)	1000倍	散布	3回以内
	1B	スプラサイド水和剤	収穫14日前まで	1500倍	散布	2回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤 <sup>*1</sup>	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内
	4A	ダントツ水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	28	テツパン液剤 <sup>*2</sup>	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
うめ	1A	オリオン水和剤40	成虫発生期 (但し、収穫7日前まで)	1000倍	散布	3回以内
	1B	スミチオン乳剤	成虫発生初期 (但し、収穫14日前まで)	1000倍	散布	2回以内
	1B	スプラサイド水和剤	収穫14日前まで	1500倍	散布	2回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内
	4A	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	22B	アクセルフロアブル	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
	28	テツパン液剤 <sup>*2</sup>	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
果樹類	—	バイオリサ・カミキリ <sup>*3</sup> (生物農薬)	成虫発生初期	1樹当たり1本	地際に近い主幹の分枝部分に架ける	—

\*1 小粒核果類(うめを除く)に適用がある

\*2 小粒核果類に適用がある

\*3 カミキリムシ類に適用がある

幼虫対象

IRACコード	農薬の名称	主な適用作物名	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の使用回数
3A	ロビンフッド <sup>*4</sup> (スプレー式)	もも、すもも、うめ、おうとう	収穫前日まで	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	5回以内
—	バイオセーフ (生物農薬)	もも、うめ	幼虫発生期	2500万頭(約10g)	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	—

\*4 カミキリムシ類に適用がある

くん蒸剤

IRACコード	農薬の名称	主な適用作物名	くん蒸時間	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の使用回数
8F	キルパー40	もも、すもも、うめ (伐倒木、枯損木)	14日間以上	被覆内容積1m <sup>3</sup> あたり 原液750~1500ml	加害された伐倒木を集積したも のまたは枯損木に所定量量を 散布し、直ちにビニール等で密 閉し所定期間くん蒸する	1回
8F	NCS	もも、すもも、うめ(伐倒木)	14日間以上	被覆内容積1m <sup>3</sup> あたり 原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤 を散布し、直ちにビニール等で密 閉し、くん蒸する	1回

和歌山県農作物病害虫防除所（紀の川駐在）  
電話：0736(73)2274